

夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校

学校だより 第5号

令和3年9月17日

「さしすせそ」の「せ」

長かったような短かったような夏休みが終わり3週間経ちました。緊急事態宣言が発出されており、変異株が蔓延しているこの状況により、2日のパラリンピック観戦、7日の特別支援学校スポーツ大会、10日の千葉ジェッツバスケット教室が中止となりました。3年生の修学旅行（山梨方面）も泣く泣く再延長となってしまいました。

緊急事態宣言も再延長されるであろうという様子を踏まえ、すでに22日のコト・モノマーケット、10月1日のスポーツフェスティバルを中止とさせていただきました。案の定、9月30日までの再延長が決定しました。感染者の若年化や重症患者数の増加、ワクチン不足、さらなる変異株の登場等々、予測がつかない状況となっています。



いろいろ中止となる中、9月1日の防災訓練は実施しました。前回同様、地震発生による避難訓練でしたが、今回は津波の恐れがあるという想定で屋上に避難しました。普段は施錠もしてありますし基本的に立ち入り禁止なので、初めて屋上に上がったという生徒がほとんどでしたが混乱することなく避難することができていました。生徒には「今日の訓練は20分ほどで終わり、また各作業班へ戻っていきます。でも実際の災害時は教室に戻ることもできず、ここで何時間も何日間も過ごさなければならないかもしれない。暑い日かもしれないし雪が降るような日かもしれない。食べ物もない、トイレもない。そんな状況になるかもしれないことをしっかりとイメージし、自分はどんな様子になりそうか、自分は何ができるか、自分は何をしなくてはいけないのかを是非、考えておいてください。」と話しました。

危機管理の「さしすせそ」という言葉を耳にしたことがあるかと思います。「さ：最悪を想定して、し：慎重に、す：素早く、せ：誠意をもって、そ：組織的に」というものです。これは何も地震に限ったことではなく、火災や台風、現在のコロナ禍の状況においても同じことが言えると思います。このコロナの状況下で誰もがいろいろな考えを持っていると思います。政府の見解、専門家会議の意見、コメンテーターの考え、そんな中で「これが正しい」という正解はなかなか見いだせないと思います。しかし、ある程度考えをまとめ、方向性を打ち出さないと組織として機能しなくなるというのわかります。県や市区町村、企業や学校等、どんなに小さな組織でも危機管理の「さしすせそ」を踏まえてしっかりと議論を重ね、最善の対応策を考えているかと思います。いろいろな立場でいろいろな状況を想定し、相手を思いやって考え、議論を進められるか、「さしすせそ」の「せ：誠意をもって」が今の状況に一番必要なのではないかと思います。我々教職員はもちろんのこと生徒の皆さんにも、自分は何ができるか、自分は何をしなくてはいけないのか、誠意をもって考えるということを実践してほしいと思います。

校長 三宅 健二郎